

Problem 1. G, H を群とし、 $\phi: G \rightarrow H$ を準同型写像とする。 $N = \text{Ker}\phi$ とする

1. N が G の正規部分群にあることを示せ
2. このとき、次のことを注意して準同型定理を証明せよ
 - (a) $\pi: G \rightarrow G/N$ を標準的な準同型写像とすると、 $\phi = \bar{\phi} \circ \pi$ をみたす写像 $\bar{\phi}: G/N \rightarrow H$ が矛盾なく定義できること
 - (b) $\bar{\phi}$ が準同型写像になること
 - (c) $\bar{\phi}$ が単射になること
 - (d) $\bar{\phi}$ が群の同型 $G/\text{Ker}(\phi) \cong \text{Im}(\phi)$

Proof. 1. $N = \text{Ker}(\phi) = \{g \in G \mid \phi(g) = e_H\}$ で
 $\forall g \in G, \forall n \in N, \phi(gng^{-1}) = \phi(g)\phi(n)\phi(g^{-1}) = \phi(g)e_H\phi(g)^{-1} = \phi(g)\phi(g)^{-1} = e_H$ 故
 ら $gng^{-1} \in N$ で $N \triangleleft G$

2. (a) $\forall a \in \text{Ker}\phi, b \in \text{Ker}\phi$ を取り、 $a \in \text{Ker}\phi = b \in \text{Ker}\phi$ とすると $b^{-1}a \in \text{Ker}\phi$ から $b^{-1}a \in \text{Ker}\phi$. ϕ は準同型であるから $e = \phi(b^{-1}a) = \phi(b)^{-1}\phi(a)$ があるから $\phi(a) = \phi(b)$
- (b) $\forall gN, g'N \in G/N, \bar{\phi}(gn \cdot g'N) = \bar{\phi}(gg'N) = \phi(gg') = \phi(g)\phi(g') = \bar{\phi}(gN)\bar{\phi}(g'N)$
- (c) $\bar{\phi}$ が単射である $\iff \text{Ker}\bar{\phi} = e = \{N\} \iff \{gN \mid \bar{\phi}(gN) = e_H\} = \{N\}$
 $\iff \{gN \mid \phi(g) = e_H\} = \{N\} \iff \{g \mid \phi(g) = e_H\}N = \{N\}$ で、これは $NN = N$
 は自明であるから $\bar{\phi}$ は単射
 また、定義からやると $\bar{\phi}(a \in \text{Ker}\phi) = \bar{\phi}(b \in \text{Ker}\phi)$ とおくと $\phi(a) = \phi(b)$ で $\phi(b^{-1}a) = \phi(b)^{-1}\phi(a) = e$ があつて、 $b^{-1}a \in N$ になり、これにより $b^{-1}aN = N$ で $aN = bN$.
 言い換えれば $a \in \text{Ker}\phi = b \in \text{Ker}\phi$ であつて、単射である
 なお、 $\bar{\phi}$ の定義より任意の H の元に対して、 ϕ により存在性を保証しているから、
 $\bar{\phi}$ は全射である
- (d) 以上の証明より、ある全単射 $\bar{\phi}$ が存在し、この $\bar{\phi}$ は $G/N = G/\text{Ker}\phi$ から $H = \text{Im}\phi$
 への写像であるから $G/\text{Ker}\phi \cong \text{Im}\phi$

□

Problem 2. 加法群の準同型 $\phi: \mathbb{Z} \rightarrow \mathbb{Z}$ を考える

1. $\phi(1) = k \in \mathbb{Z}$ とするとき $\forall m \in \mathbb{Z}, \phi(m)$ を求めよ
2. ϕ が単射になるための k の条件を求めよ. またこのときの $\text{Im}(\phi)$ を求めよ
3. ϕ が全射になるための k の条件を求めよ

Proof. 1. $\phi(2) = \phi(1+1) = \phi(1) + \phi(1) = k + k = 2k$ であるから
 $\phi(m) = \phi(m \times 1) = m \times \phi(1) = mk$

2. $\phi(a) = \phi(b)$ とすると、 $ak = bk$ で、 ϕ は単射であるから $k \neq 0$
 $\text{Im}\phi = \{\phi(m) = km \mid m \in \mathbb{Z}\} = k\mathbb{Z}$

3. ϕ は全射であるから、 $\forall m_2 \in \mathbb{Z}, \exists m_1 \in \mathbb{Z}, s.t. \phi(m_1) = m_2$
 $\phi(m_1) = km_1$ であるから、 $\forall m_2 \in \mathbb{Z}, \exists m_1 \in \mathbb{Z}, s.t. km_1 = m_2 \iff m_1 = \frac{m_2}{k} \in \mathbb{Z}$ であるから、 $k = \pm 1$

□

Problem 3. 位数 8 のアーベル群の全ての同型類を求めよ. このうち巡回群であるものはどれか

Proof. $8 = 2^3$ であるから $\mathbb{Z}_8 \cong \mathbb{Z}_2 \times \mathbb{Z}_4 \cong \mathbb{Z}_2 \times \mathbb{Z}_2 \times \mathbb{Z}_2$ で巡回群になるのは \mathbb{Z}_8 だけ \square

Problem 4. $C = \{z \in \mathbb{C} : |z| = 1\}$ とする. ただし, $i = \sqrt{-1}$ とするとき, $z = x + iy$ ならば $|z| = \sqrt{x^2 + y^2}$ である

1. C が $\mathbb{C}^\times = \mathbb{C} - \{0\}$ の部分群になることを示せ
2. $\phi: \mathbb{C}^\times \rightarrow C$ を $z \mapsto \frac{z}{|z|}$ とすると, ϕ は準同型写像であることを示せ
3. ϕ が全射であることを示せ
4. $z \in C$ の ϕ による逆像 $\{w \in \mathbb{C} \mid \phi(w) = z\}$ を記述せよ
5. $\text{Ker}(\phi)$ を求めよ. ϕ に準同型定理を適用して得られる同型を述べよ

Proof. 1. 1 は \mathbb{C}^\times の単位元で, $\forall c \in C, 1c = c1 = c$ だから 1 も C の単位元である
 $\forall z_1, z_2 \in C, z_1 z_2 \in \mathbb{C}$ で, $z_1 := e^{i\theta_1}, z_2 := e^{i\theta_2}$ とすると $z_1 z_2 = e^{i(\theta_1 + \theta_2)}$ であるから $|z_1 z_2| = 1$, よって $z_1 z_2 \in C$
 $\forall z \in C, |z^{-1}| = \frac{1}{|z|} = 1$ から $z^{-1} \in C$
 以上より, C は \mathbb{C}^\times の部分群である

2. $\forall a, b \in \mathbb{C}^\times, \phi(ab) = \frac{ab}{|ab|} = \frac{ab}{|a||b|} = \frac{a}{|a|} \cdot \frac{b}{|b|} = \phi(a)\phi(b)$ から, ϕ は準同型写像である
3. $\forall z_2 \in C$ 定義より $z_2 = \frac{z_1}{|z_1|}$ をみたす $z_1 \in \mathbb{C}^\times$ が存在するので ϕ は全射である
4. $\{\omega \in \mathbb{C} \mid \phi(\omega) = z\} = \left\{ \omega \in \mathbb{C} \mid \frac{\omega}{|\omega|} = z \right\}$ で, $|\omega| > 0$ から $\{\omega \in \mathbb{C} \mid \phi(\omega) = z\} = \mathbb{C}^\times$
5. $\text{Ker}\phi = \{c \in \mathbb{C}^\times \mid \phi(c) = 1\} = \text{Ker}\phi = \left\{ c \in \mathbb{C}^\times \mid \frac{c}{|c|} = 1 \right\} = \mathbb{R}_{>0}$ であるから $\mathbb{C}^\times / \mathbb{R}_{>0} \cong C$

□

- Problem 5.** 1. G を群とする. $x, y \in G$ が共役であるとは $\exists g \in G, s.t. x = gyg^{-1}$ となることである. 共役が G 上の同値関係であることを示せ
2. この同値関係で $x \in G$ を含む同値類 $C(x)$ を x の共役類という. 同じ共役類に入る元は同じ位数をもつことを示せ
3. $x \in G, x \in Z(G) \iff |C(x)| = 1$ を示せ. ただし $Z(G)$ は G の中心である
4. $x \in G, Z_G(x) = \{g \in G | gx = xg\}$ とおく. x を含む共役類 $C(x)$ の濃度が $[G : Z_G(x)]$ に等しいことを示せ

- Proof.** 1. (a) $\forall x \in G, exe^{-1} = exe = x$ から $x \sim x$
- (b) $\forall x, y \in G, x \sim y$ とすると、 $\exists g \in G, s.t. x = gyg^{-1}$ で $xg = gy$ があり $y = g^{-1}xg = g^{-1}x(g^{-1})^{-1}$ だから、 $y \sim x$
- (c) $\forall x, y, z \in G, x \sim y, y \sim z$ と仮定すると $\exists g, h \in G, s.t. x = gyg^{-1}$ で $y = hzh^{-1}$ から $x = gyg^{-1} = ghzh^{-1}g^{-1} = (gh)z(gh)^{-1}$ があるので $x \sim z$
- 以上より、 \sim は同値関係である
2. $\forall x, y \in C(x), x \sim y$ と仮定すると $\exists g \in G, s.t. x = gyg^{-1}$ であって、 x の位数を n とすると $e = x^n = (gyg^{-1})^n = g^n y^n g^{-n}$ がある. すると $g^n = g^n y^n$ で $e = y^n$ から、 y の位数 $m | n$ である. 逆に、 $x = gyg^{-1}$ より、 $g^{-1}xg = y$ があるから、同じ操作をすると $n | m$ から、 $m = n$
3. $Z(G) = \{a \in G | \forall b \in G, ab = ba\}$ で $x \in Z(G)$ から $\forall b \in G, xb = bx \iff \forall b \in G, x = bxb^{-1}$ から、 $x \sim x$ で $C(x) = \{x\}$ から $|C(x)| = 1$. 逆に $|C(x)| = 1$ とすると、 $C(x) = \{x\}$ で、 $x \sim x$ から $\forall g \in G, x = gxg^{-1} \iff \forall g \in G, gx = xg \iff x \in Z(G)$
4. 群作用を $g \cdot a = gag^{-1}$ とすると、 $C(x) = Orbit_G(x)$ であり、この作用での $Stab_G(x) = \{a \in G | a \cdot x = x\} = \{g \in G | gxg^{-1} = x\} = \{g \in G | gx = xg\} = Z_G(x)$ であるから *Orbit-Stabilizer* の定理より、 $[G : Z_G(x)] = |\{gxg^{-1} | g \in G\}| = |C(x)|$

□

Problem 6. 1. S_4 の共役類の代表元を求め、各共役類の元の位数を求めよ

2. S_4 の類等式を求めよ。また、求めた群が全て共役であることを示せ

3. A_4 の Sylow3 部分群を求めよ。また、求めた群が全て共役であることを示せ

4. S_4 の部分群 $H := \langle (1\ 2), (1\ 3) \rangle$ は集合 $X = \{1\ 2\ 3\ 4\}$ に自然に作用する。この作用によって X を軌道に分解せよ。また、 $1 \in X$ の固定部分群を求めよ

Proof. 1. $ord((1)) = 1, ord((1\ 2)) = 2, ord((1\ 2\ 3)) = 3, ord((1\ 2)(3\ 4)) = 2, ord((1\ 2\ 3\ 4)) = 4$

$$2. |S_4| = \sum_i |C_i| \iff 24 = 1 + 6 + 8 + 3 + 6$$

$$3. |A_4| = \frac{1}{2}4! = 12 = 2^2 \cdot 3 \text{ で Sylow3 部分群の個数は } s \text{ とすると、} s \mid 4 \text{ かつ } s \equiv 1 \pmod{3}$$

□